

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 佐藤
日 時	令和元年7月26日(金曜日)		開 議 午前 9 時 58 分
			閉 議 午前 11 時 10 分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、竹田、菱田		
出席理事者	【産業観光部】吉村部長 [商工観光課]三宅課長、綾野主幹 [光秀大河推進課]松本課長		
出席事務局	山内事務局長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員1名(三宅)

会 議 の 概 要

9 : 5 8

1 開議 (小川委員長あいさつ)

[事務局主任より日程説明]

2 案件

[産業観光部入室]

(1) 亀岡市プレミアム付商品券事業について (産業観光部行政報告)

[産業観光部長あいさつ]

[商工観光課長 資料に基づき説明]

1 0 : 0 7

[質疑]

<藤本委員>

使用可能店舗は、どのように表示されているのか。

<商工観光課長>

店舗にステッカーやポスターを掲示いただき、利用者がわかるように表示していく。

1 0 : 0 8

(2) 「麒麟がくる」京都大河ドラマ館整備経費等について (産業観光部行政報告)

[光秀大河推進課長 資料に基づき説明]

1 0 : 1 7

[質疑]

<赤坂委員>

最初はお客さんがたくさん来るが、だんだん減ってきたときの計画はあるのか。駐車場が70台では少ないのでは。お年寄りの方がNHKをよく見られるので、電車では難しいのでは。

<光秀大河推進課長>

一過性でないということを考えて取り組みを進めているが、2021年には、一気に来場者が減ることが想定される。いかに2020年に亀岡をPRして、観光地のシティプロモーションができるのかが重要と考える。今、音声ガイドアプリの構築を計画しており、今後もアプリを拡充していく。大河ドラマでは、インバウンドの観光客に来てもらう対応ができていない。2021年は台湾で大河ドラマが放送されるので、光秀ゆかりの地として、台湾人に来てもらえるようにしていきたい。駐車場は、過去のドラマ館では200台ほど確保されていた。民間の駐車場を合わせて、京都スタジアムの中にも70台の駐車場があり、料金を支払って停めることができる。ホームゲームが行われる日の調整は必要になると思う。

<赤坂委員>

ツアーでは1回しか来ない。ファンは何回も来るので、タレントを呼ぶなど何回行っても楽しいイベントが必要である。

<光秀大河推進課長>

大河ドラマ館は1月に設営をする。3回くらいリニューアルを行い内容を変えていきたい。滞在時間は1時間から1時間30分であるが、団体客になると、ドラマを見ていない方は10分ぐらいで素通りする方もいるので、そうした方々にも、フードコート等亀岡の魅力を発信できるイベントを考えていきたい。

<藤本委員>

大河ドラマが終わってからも人が来る企画があればいいと思う。亀岡で大河ドラマのロケはしているのか。

<光秀大河推進課長>

ロケについては、岐阜県で行われた。順番に岐阜県から滋賀県に入ってくる。当初はどこもしないということだったが、やはり、地域を盛り上げていくということで、順次、NHKがロケを行っている。京都は後半になる。配役が発表されてから、京都でもロケが行われるかもしれない。亀岡でもこういうロケができるということで、とりまとめ、NHKにロケ地候補地を提出した。積極的にロケをしてもらって地域が盛り上がるような土壌をつくっていきたい。

<奥野副委員長>

駐車場は、サッカーが開催されるときは、スタッフや報道関係者の車が来ると思われるが、クレームがないように、混雑の解消ができるように要望しておく。

<光秀大河推進課長>

ホームゲームの時には、そういったことが想定される。特に団体のバスは事前予約制にしていく。情報を提供して、京都スタジアムとも連携して進めていきたい。

<小川委員長>

ドラマ館の展示品である小道具は、目玉品は取り合いになると思うが、他都市のドラマ館とどのように分け合うのか。

<光秀大河推進課長>

NHKからは、コンセプトを出してほしいと言われている。岐阜県と亀岡市が規模的に大きい。我々のコンセプトは「京都」である。丹波攻略、山崎の合戦、本能寺の変など後半を含め、「京都」という歴史的に魅力のあるまちをコンセプトに京都

大河ドラマ館を設営したいと、NHKエンタープライズと調整しながらやっている。ドラマ館を出すためには、歴史の前半部分も必要になってくるので、そうしたところも融合させながら、独自に京都の魅力を発信できるよう取り組んでいきたい。

<小川委員>

南郷公園の麒麟カフェも積極的に宣伝をお願いしたい。

10:30

[産業観光部退室]

3 その他

(1) 委員会活動の取り組み内容について

<小川委員長>

今後委員会として、調査研究を深める内容等について協議したいと思う。別紙と先日の議運の協議内容について、事務局説明を。

<事務局主任>

別紙は、5月29日の常任委員会の会議録を抜粋したものである。このテーマをもとに、今後委員会で取り組む具体的な内容について協議いただきたい。先日の議会運営委員会で、ある程度テーマを決めて、年間を通して取り組んでいったほうがいいのではないかとこの検討項目が出たことを受けて、具体的な取り組み内容を決めていただきたい。

<小川委員長>

全体としては「亀岡のにぎわいのあるまちづくり」として調査研究を深めていくと決まったが、もう少し、例えばインバウンド、亀岡駅南のまちづくり、大河ドラマ館など深めたいことについてご意見はあるか。

<赤坂委員>

既存の祭りを「麒麟がくる」に便乗して、集客をどれだけふやせるかが大事である。他都市から、観光客を呼び込む。亀岡駅南のまちづくりについて、観光協会と話し合いながら、もっと頑張ってもらって、予算をふやしてもらって、応援できるようにしていきたい。

<藤本委員>

電柱の無電柱化、国からの補助金の取り方などを行政に伝えていくべき。もう1つは国道9号のダブルルートのルート検討と効果・調査・研究・要望である。インバウンドを考えると新丸太町からの延伸、大阪との交流など検討が必要である。市長がある個人演説会で、「天神川まで地下鉄が入ってくる、それを延伸させる」、「大阪から止々呂美まで地下鉄が入ってくるので、亀岡でブッキングさせる」ようなことを言っていた。冗談かもしれないが、それも1つの考え方である。積極的に働きかけていく必要がある。市としても必死にすべきだし、委員会としても提言を出すべきである。国がやるのを待っていても仕方がない。

<小川委員長>

1つは、集客・誘客の取り組みが大事である。ダブルルートについて研究する。亀岡地区の無電柱化についての意見があった。その他意見はあるか。

<赤坂委員>

以前、鳥栖市に視察に行ったが、J1になったら、一気に自動車での来客がふえた。早く、渋滞回避について取り組みを考えていくべきである。

<小川委員長>

観光施策による市内の交通状況を考える。誘客につながるようにしていく。

<藤本委員>

ダブルルートのコースの検討が大事である。大阪万博が終わった後の今後の誘客なり、道路整備を考えていくか、しっかり検討していかないと、まちづくりに乗り遅れる。

<小川委員長>

電柱の無電柱化についてと、ダブルルートを含めたにぎわいのまちづくりと意見が出ているが、他に意見はあるか。

<奥野副委員長>

無電柱化は亀岡地区の人から、どれほどの期待と協力があるのか調査する必要があると思う。

<藤本委員>

亀岡地区の人が賛成も反対もしていないのに、進めることはできない。今後の観光を考えたら、必要であると思われるので、話し合いの場を持って進めていくべき。

<菱田委員>

無電柱化は手段である。なぜ、無電柱化をしなければならないかについて議論する必要がある。高山市はまちを整えるために、電柱が邪魔だからどうしようかとなった。亀岡市議会で、過去に景観条例の中で相当議論した経緯がある。最終的に重点地区になってほしかった城下町が、できなかった。その辺を調査研究しながら進める必要がある。鉾町の方にどれだけ、無電柱化の意識があるかが重要である。問題意識はあるが、それを解決するための工夫がないので、議会としてうまく提案していければいいし、行政としても関わっていく必要がある。

もう1つは、にぎわいという中で、観光入込客数の一部にインバウンドの数がある。亀岡市は総合計画の中に、にぎわい人口と言っている。そのにぎわい人口とは、どういうものなのか。どこにどういうにぎわい人口が集まっているのか。その辺を把握・分析して、景観や観光ルート、ダブルルートにしないと、いきなり、ダブルルートや無電柱化になると議論が狭まりすぎる。

<竹田委員>

無電柱化は地域でなぜ出てきたかをしっかり見なければならない。景観条例をみても、亀岡地区から「やれ」と出てきて、結局亀岡地区から「あかん」となった。地元の人に話を聞いた中で、委員会としてしっかり煮詰めて行かなければならない。ダブルルートや地下鉄の話は、大きな話なので構想は持てばいいと思う。そこで特別委員会をつくってほしいとなれば、議運にかければいい。もう少し身近なものとして、国道423号の予算が飛んだらどうするのかということを取り組みたい。また、馬堀駅に来ている外国人を少しでも亀岡駅方面に来てもらう方法を考えられればと思う。高山市の視察の時、商店街の人が中国語を少し話していた。保津川遊船が多言語の勉強会をされている。商工会議所の話を聞いて取り組みをしていきたい。国際交流の部署に意見を聞いたり、また、にぎわいという大きなくくりで言えば、道路もそうである。議運のように、短期・中期・長期に分けて整理して、時間をかけてテーマの具体化をしてはどうか。

<赤坂委員>

馬堀駅まで来るが、一瞬で帰ってしまっている。観光協会や料飲連合会を呼んで綿密に計画を立てて、アクションを起こしていく。何か進めなければならない。外国人をできるだけ、亀岡駅方面に呼びたい。亀岡のにぎわい、人集めをしていきたい。

<竹田委員>

市長が「今300万人亀岡に観光客が来ていて、あと200万人呼ぶ」と言っている。各課の施策に今後出てくると思われるので、情報をキャッチしながら進めていけばいい。市長は一定思いを持っておられると思う。

<小川委員長>

執行部や地元の人と意見交換をしていったらいいと思う。

<藤本委員>

短期・中期・長期の順番を決めて検討していくべき。無電柱化については、中期ぐらいで考えて、誘客については、ダブルルートを含めて早く検討して、要望していかないと間に合わないようになる。長期的には国道423号や、地下鉄構想も検討が必要である。

<小川委員長>

4年でやるのか、今年度でやるのか。

<竹田委員>

長期になっても、引き継いでやってもいい。

<菱田委員>

にぎわいとは何かを確認する。にぎわい人口は、行政としてどのようにつかんでいるのか。中身の分析ももらう。分析というのは、地元の人なのか、外国人なのか、観光客なのか。三大観光以外のところも含めて分析する。観光協会の会長も「観光入込客を300万人から500万人にできるだけ早くしたい」、「ターゲットイヤーを中心に考えたい」と言っていた。具体的な案を持っておられるなら、意見を聞かせてほしい。いきなりピンポイントでいくと、本末転倒になる。

<小川委員長>

テーマに沿って、にぎわい人口というものを調査して、インバウンドを含めた誘客・観光入込客数について、観光協会と意見交換をしていきたい。交通のこと、無電柱化も意見交換したらいいと思う。にぎわい人口というキーワードを中心に観光誘客を調査研究していきたい。

<藤本委員>

にぎわいのあるまちづくりについては早急にやらなければならない。定住人口がふえるにぎわい、観光客がふえてのにぎわいなのか、来るだけで経済効果がなければ意味がない。宿泊人口がふえて経済効果がふえてにぎわいがふえるのならわかる。誘客をどういう形で取っていくかとなれば、ダブルルートも非常に大事になってくる。早急に手を打つ必要がある。

<小川委員長>

1つずつ調査して深めていきたい。観光協会も含めて意見交換をしながら、観光施策を中心にやっていけたらいいと思う。

<奥野副委員長>

市長の具体的な考えを聞きたい。ダブルルートは何も進んでいないので、決めていかなければならないと思う。

<小川委員長>

意見交換を含めて、深めていきたい。

<赤坂委員>

意見交換もできるだけ早い方がいい。料飲連合会とも意見交換をしたい。食べるところが本当でない。

<小川委員長>

主テーマに沿って、今年度・中期・長期に分けて取り組んでいきたい。

散会 ～ 11 : 10